

• 日语学习丛书 •

日本学生 优秀作文选

(中文注释)

日本青少年研究所 编



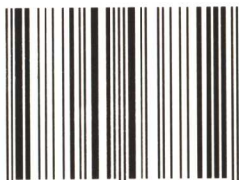
商務印書館

• 日语学习丛书 •

日本学生 优秀作文选

- 丰富多彩的校园生活
- 充满爱心的志愿者活动
- 真实感人的内心独白
- 生动活泼的青春语言

ISBN 7-100-03881-2



9 787100 038812 >

ISBN 7-100-03881-2/H·974

定价：17.00 元

日语学习丛书

日本学生优秀作文选

(中文注释)

日本青少年研究所编

商务印书馆

2005年·北京

图书在版编目(CIP)数据

日本学生优秀作文选/日本青少年研究所编. —北京:商务印书馆, 2004

(日语学习丛书)

ISBN 7-100-03881-2

I. 日... II. 日... III. 日语—作文—选集
IV. H319.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 059832 号

所有权利保留。
未经许可,不得以任何方式使用。

日语学习丛书
RĪBĒN XUÉSHENG YŌUXIÙ ZUÒWÉN XUǎN
日本学生优秀作文选
(中文注释)
日本青少年研究所编

商务印书馆出版
(北京王府井大街36号 邮政编码 100710)
商务印书馆发行
北京瑞古冠中印刷厂印刷
ISBN 7-100-03881-2/H·974

2004年3月第1版

开本 787×960 1/32

2005年3月北京第2次印刷

印张 13

定价: 17.00 元

编者的话

本书收录的作文选自日本青少年研究所 2002 年编辑的《第 9 回「いきいき活動奨励賞」受賞論文集》。该文选是一年一度的日本全国高中生征文赛获奖作品，我们从中选收了 85 篇。文章所反映的是日本高中生自身的生活经历，语言生动流畅，富有时代感，不仅可作为读者学习日语的好素材，也是了解日本社会、人文环境以及语言文化背景的理想材料。读者可通过这些作文了解到日本青少年的学习生活和丰富多彩的课外活动以及积极向上的生活态度。为了便于阅读，我们对文中难解的词语和地名、机构名做了必要的注释，供初学者阅读时参考。

此书出版之际，我们要特别感谢日本青少年研究所所长千石保先生。千石保先生被誉为日本青少年问题研究第一人，他不仅在日本有多部研究著作问世，还组织了许多对青少年教育有益的活动。本征文始于 1993 年，是日本青少年研究所开展的

全国性活动之一。日本高中生征文赛的最高奖为日本“文部大臣奖”。整个活动在日本社会及教育界已产生较大影响。自1996年起,在千石保先生的大力推动下,在热心于文化教育事业的尾中哲夫先生的大力支持下,使该活动扩展到我国开设日语课的高中生当中。目前,我国每年有20余所学校参加这项征文活动,获奖学生50名左右,从中选出5名学生赴日本与日本获奖者一起参加在东京举行的表彰大会,因此这项活动在我国开设日语课的学校有较大影响。

我们选编本文集出版有两个目的:一是为学习日语的读者提供一些生动的、富有时代感的语言学习材料;二是让我国青少年了解日本青少年的学习和生活态度以及乐于助人的社会责任感。

商务印书馆编辑部

目 次

岩手から発信! 守れ日本植物界の宝 ……………	関山 拓	1
江戸時代の牛医書を翻訳して ……………	高倉 弘士	6
住民運動を経験して ……………	畠山 有理	11
菊うどんがくれた贈り物 ……………	小笠原 理津子	17
無 題 ……………	石鉢 真季	22
無 題 ……………	高橋 麻美	27
「ひと」が好きであること ……………	豊嶋 英理	32
小さな子どもから得た多くの事 ……………	大島 澄江	37
私を形作ったもの ……………	寺澤 優美	42
私達の商業部 ……………	小林 優太	46
感謝の心で ……………	太田 奈穂	51
放送活動をとおして ……………	我妻 康児	56
私と児童文化研究部 ……………	鈴木 理恵	61
思い出のステージ ……………	今野 瑞季	66
私の窓・家庭クラブ ……………	青柳 雅之	72
いつでもどこでも子供達と一緒に ……………	北村 麻衣・仲野 かおり	77
美味しい! の一言を目指して ……………	横田 みどり	82
植林ボランティアを通して思うこと ……	大川 俊輔	87

人のため、自分のため	中谷内 幸恵	92
十七歳のオルゴール	小栗 皆実	97
明日に向けて	浅野 里奈	102
高校野球と私	渡辺 早苗	107
弟と共に	多田 奈津子	112
無 題	森岡 祐弥	117
無 題	辰林 亜矢子	122
科学実験の面白さを知ってもらう活動を通じて	田中 聖	127
12/24クリスマスにサンタクロースに扮し手作り 木馬をプレゼントしている	有本 昌栄	133
外国人に日本語を教える	小竹 育美	137
フードバンクとアメリカ魂	財津 瑛子	142
『いのち』から見えたもの	金丸 正信	147
創作劇「神の降る浜」を通して	新原 江里香	152
子供たちから学んだこと	小園 めぐみ	157
体験は自信へと	上村 美二子	161
私も輝くボランティア	松本 佳子	166
ボランティア活動と私	平川 加穂里	170
ボランティア活動の思い出	小木曾 真琴	175
「街頭募金活動」から学んだこと	石藤 めぐみ	180
『笑顔』で交流	佐々木 真美	185
ティオが教えてくれたこと	荒川 実結	190
ボランティア活動を通して学んだこと	小室 亜沙美	195

『ハナコお姉さん』から学ぶこと ……	伊藤 友紀	199
私に出来る国際協力 ……	船山 由香里	204
ジュニアリーダースクラブを通して ……	田所 愛子	209
私を変えたもの ……	田村 睦	214
はじめの一步 ……	渡邊 裕子	219
落下事故を乗り越え、やり遂げた器械体操 ……………	松倉 康二	224
新しい挑戦 ……	中野 華代	229
三田家の事情 ……	柳平 理佐	234
笑顔になれる場所 ……	中附 あゆみ	240
私達のフラワーボランティア活動 ……	石原 聖子	244
無 題 ……	荒木 力州	249
地域協働 ……	中畑直子・佐々木貴明	254
大きな収穫物 ……	松永 春菜	259
郷土研究班と僕 ……	大塚 拓	264
国境を越えるSクラブの活動内容 ……	田辺 慶美	269
ボランティアとは何か? ……	谷口 奈里恵	273
僕たちの「地域に開かれた学校作り」…	古田 寛生	278
一生誇りに思えるもの ……	衣笠 友香理	283
無 題 ……	大野 華奈	288
僕とボランティア ……	鈴木 雅貴	293
異文化との接触 ……	河野 通知	297
差別という壁を乗り越えて ……	西谷 侑香	302
こどもたちからもらった創造の源 ……	八橋 知美	307
地域社会におけるボランティア活動 ……	高橋 諒	312

青春	高瀬 知恵	317
ボランティア活動を通じて、私が学んだこと	曾田 伸比古	320
ありのままに生きる	我妻 夢香	323
国際交流の経験を通じて学んだこと ..	藤井 吉子	328
本当の「心」を求めて	藤吉 真代	332
部活を通して	江藤 和美	337
ボランティアの喜び	増田 愛子	341
無 題	吉田 貴絵	345
愛する二つの家族へ	野瀬 智美	349
無 題	中村 加奈	353
無 題	高三瀨 由香	357
ひとつになるということ	高山 真由美	361
未来の建築は歴史に学べ!	山口 鮎美・日高 絢乃	365
自分達の手で作った全国大会、高文祭	坪田 裕美子	371
無 題	小倉 直子・大屋 藍子	376
初めて、そして	石川 麻衣	381
ひまわり号をきっかけとして	藤井 美由紀	385
「ボランティア」は最高の勉強の場	井上 清華	390
この時、私も輝き風になる	高橋 真由美	395
「空手同好会」との歩みの中で	中島 美由紀	400
生徒会とボランティア活動	山内 文	404

岩手から発信! 守れ日本植物界の宝

—ハヤチネウスユキソウ^①の増殖

と保護活動に取り組んで—

ハヤチネウスユキソウ保護研究班

関山 拓

(岩手県立盛岡農業高等学校生物工学科二年)

現在、世界中に二十七万種の野生植物が残され、そのうち七割が絶滅の危機に瀕していると言われている。その中で特に心配されているのが「ハヤチネウスユキソウ」である。

このハヤチネウスユキソウは世界中で岩手県の早池峰山にのみ見られる植物であり、日本のウスユキソウ^②の中で最も大型で、スイスの国花エーデルワイスにいちばん似ていると言われる高山植物である。テレビNHKでスイスアルプスの

① 早池峰薄雪火絨草。薄雪火絨草の一種、生長在日本岩手県の早池峰、因故得名。

② 薄雪火絨草、長于高山地帯。

特番があり、そこでエーデルワイス^①の自生が激減していることを知った。ハヤチネウスユキソウについても最近の山野草ブームによる盗掘や生育環境の変化によって急激に減少している。環境庁のレッドデータ^②では最も絶滅の危機にある種として、絶滅危惧種 Aランクに指定されている。

今年、このハヤチネウスユキソウに関連する記事が地元紙に掲載された。一つは高校生の登山競技によって、高山植物に踏みつけの被害が発生しており、そのため早池峰山での高校総体^③ができなくなったという。もう一つが山頂のトイレ問題であり、ボランティアグループが定期的に糞尿を人力で担ぎ、汲み取りを行っているという記事だ。

私達は「自分が学校で学んでいる バイオ^④の技術をこの植物の保護に生かしたい。そして多くの人達に保護の必要性を広めたい」と考え、ハヤチネウスユキソウの増殖と保護の研究に取り組

① Edelweiss, 薄雪火絨草の一種, 長于歐洲阿爾卑斯山脈。

② red data book, 瀕危物種紅皮書。世界自然保護聯盟 (IUCN) 从 1996 年开始發行。

③ 全日本高等中學運動會。全稱為“全國高等學校綜合體育大會”。

④ bio, 生命, 生物。

むことにした。私はこの話が出たとき、自分のやりたいことが見つかったような気がした。それからは毎日、放課後を中心にみんなとの研究活動が始まった。

最初に早池峰山はどのような山なのか調査することにした。岩手県自然保護課の協力で自然公園保護管理員の方を紹介していただき、早池峰山(1917m)に登り、管理員の仕事を体験した。これは実際の自生地を観察し、さらに自然保護活動への理解や苦勞を肌で感じるのが目的だ。

当日、管理員の柳田さんとともに出発した。ハヤチネウスユキソウなど高山植物をスケッチしたり、各地点の気温や地温、清水の水温やpH、養分濃度をこまかく測定した。また、柳田さんの案内で高山植物の盗掘現場を見学したほか、登山道のロープのゆるみを直す作業を体験したり、ゴミを拾い、登山者一人一人に安全の声かけをしながら山頂まで登った。夏でも山頂は気温 10°C 以下だった。携帯トイレを使い自分の糞尿は持ち帰った。その後、毎月一回のペースでこの活動を続けた。ここでは環境保護に携わる人達の苦勞を実感する貴重な体験をすることができた。

一方、学校では増殖方法の研究を続けてきた。

先生からスイス人のマックスさんを紹介していただき、現地からエーデルワイスの種を送ってもらった。種が入った袋にはスイス語で播き方が書いてあった。一生懸命に仲間と訳して用土をつくり、種を播いた。この他に寒天培地^①を作り種を播き無菌培養を行った。

スイスアルプスの土が手に入らないのでスイス産のミネラルウォーターを分析した結果、早池峰山の水によく似ていることがわかった。そこで培地、培養の環境も早池峰山の調査を参考にして設定した。その結果、自分達が考案した培地で発芽が見られた。この発芽した苗を材料にして試験管内における大量増殖試験を何度も繰り返して行った。その結果、大量の培養苗を短期間で作出できる方法を見つけた。私達はこの方法を自生地復元培養法「盛農培養法」と名づけ、本格的な増殖に取り組むことにした。現在は試験管から土に移し、順調に生育している。この研究結果を国内外のウスユキソウに試験したところ、どれもこの方法で増やせることがわかった。

その後、私達の研究活動は新聞にも紹介され、

① 琼脂細菌培養基。

多くの人達に保護の重要性を広めることができた。また、植物バイオテクノロジーの権威として知られる北海道大学の太澤勝次教授にこの研究を報告したところ「日本における大量増殖の成功は初めてではないか」という激励の言葉をいただいた。私達はあらためてこの取り組みのすばらしさを実感することができた。

これらの活動をとおして考えること。それは人工的に苗を増殖するよりも、野生植物が育つ環境を維持していくことの方がはるかに難しく、大切であるということである。

この二十一世紀を支える私達が古里の自然を自分の財産としてとらえ、行動できるようになればこの自然を次の世紀にも引き継いでいけるのではないだろうか。私達の研究がその手助けになればと思う。そのためにもこの研究を続けていきたいと思う。

江戸時代の牛医書を翻訳して

高倉 弘士

(大阪府上宮太子高等学校二年)

私は一年間かけ江戸時代の古文書である牛医書を研究しました。この書物は、江戸安政期に書写された^①、牛の病に対する薬や治療方法を記載した書物です。和歌山県周参見にある周参見^②歴史民族資料館でこの書物との出会いがありました。非常に小さな資料館で週に二日しか開館されていない資料館ですが、そこにある資料館でその展示品の中に、奇妙な牛の絵を描いた古いこの書物がありました。館長さんに、展示のため開かれている夏以外も見せてもらえないかと御願いましたところ、快く承知して下さいました。ネズミがそこかしこ齧って^③解れば今にもバラバラに分解してしまいそうなので、おそるおそる頁をめく

① 抄写。

② 读“すさみ”，地名，位于和歌山县。

③ 咬，啃。